

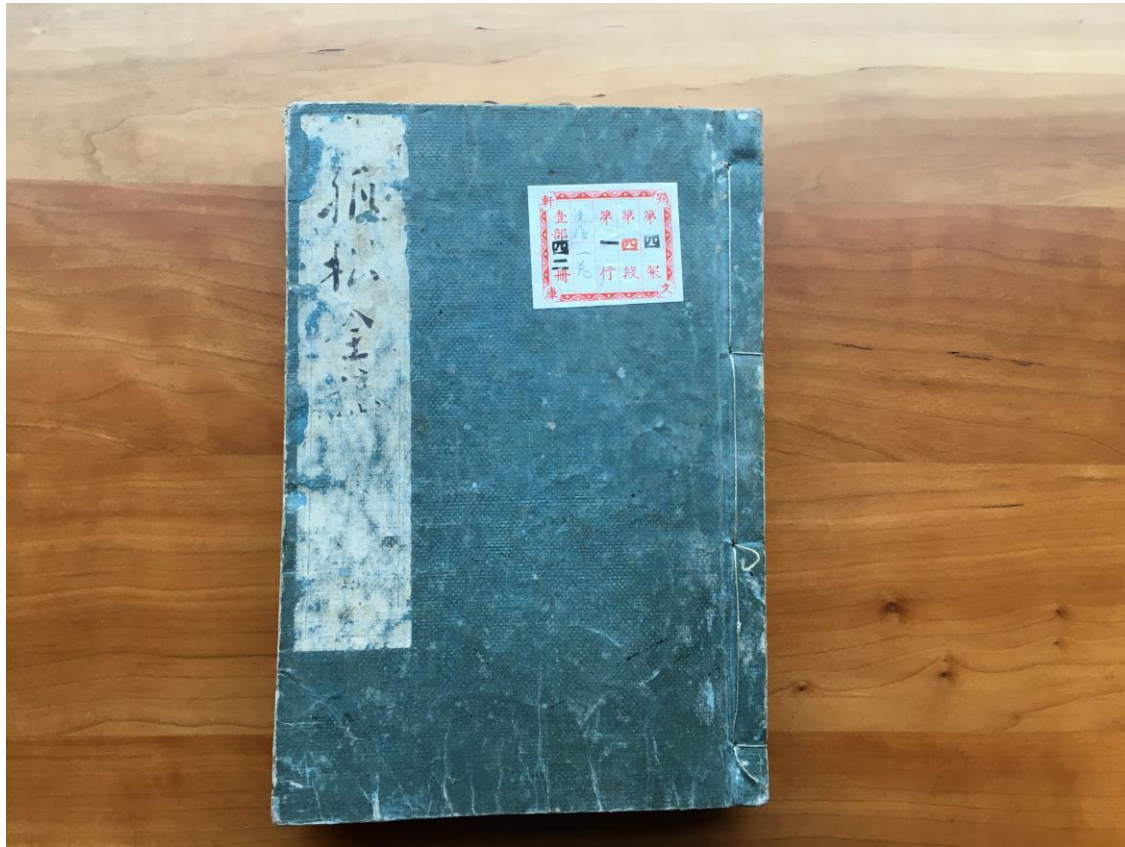
Lecture on “Kosho Zenko”
owned by Mitsui Collection, C.V. Starr
East Asian Library, UCB

Junko Koyama
National Institute of Japanese Literature

WORKSHOP ON JAPANESE OLD AND RARE BOOKS IN UCB2017
C.V. STARR EAST ASIAN LIBRARY, UNIVERSITY OF CALIFORNIA, BERKLEY

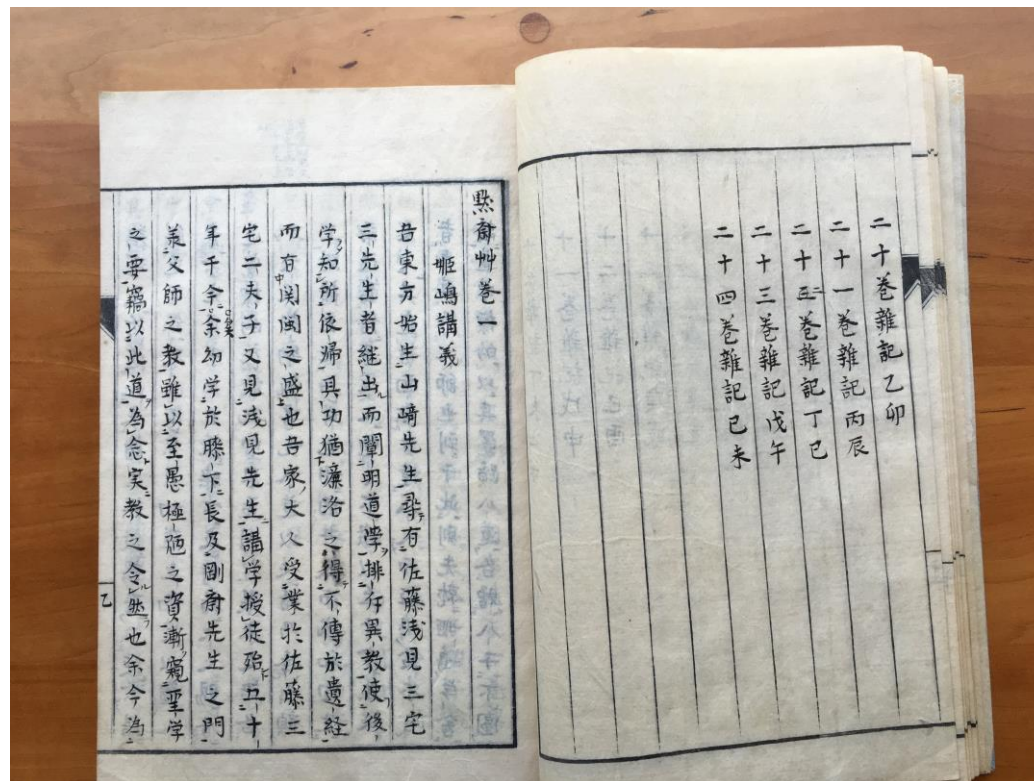
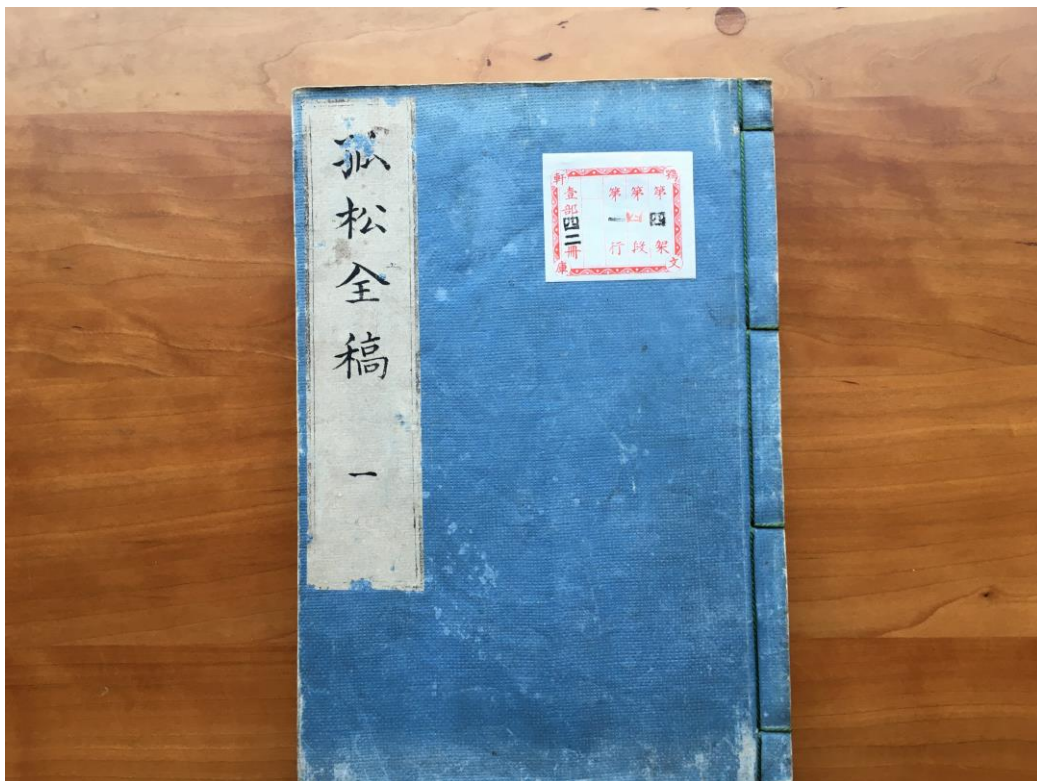
MARCH 3, 2017

“Kosho Zenko (孤松全稿)”

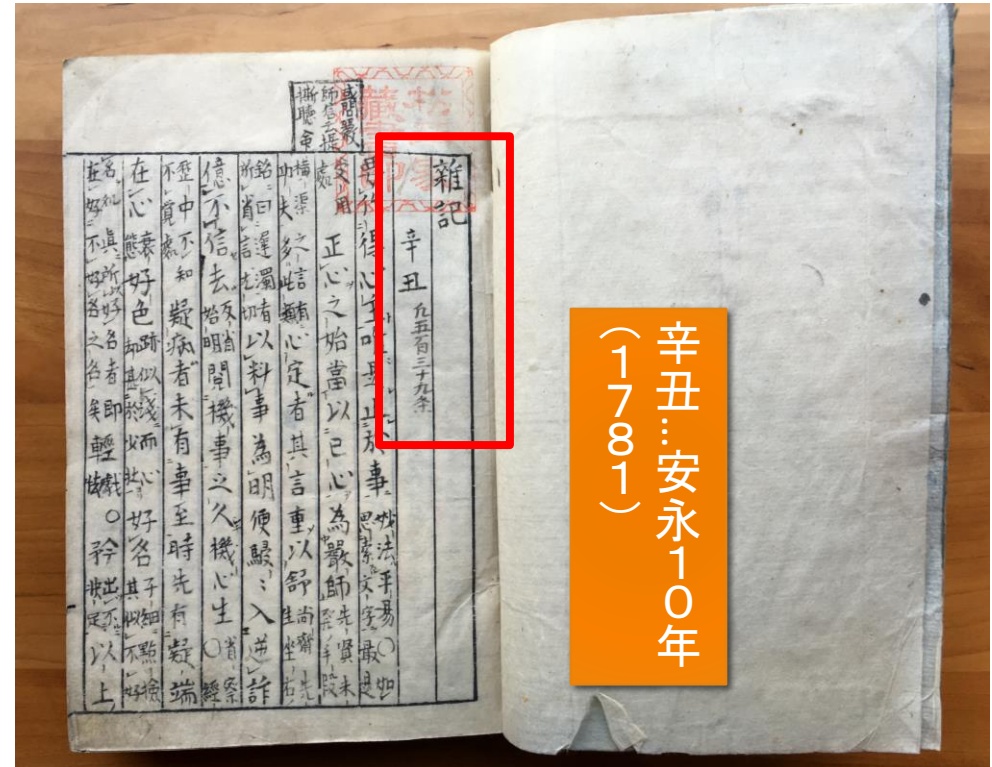
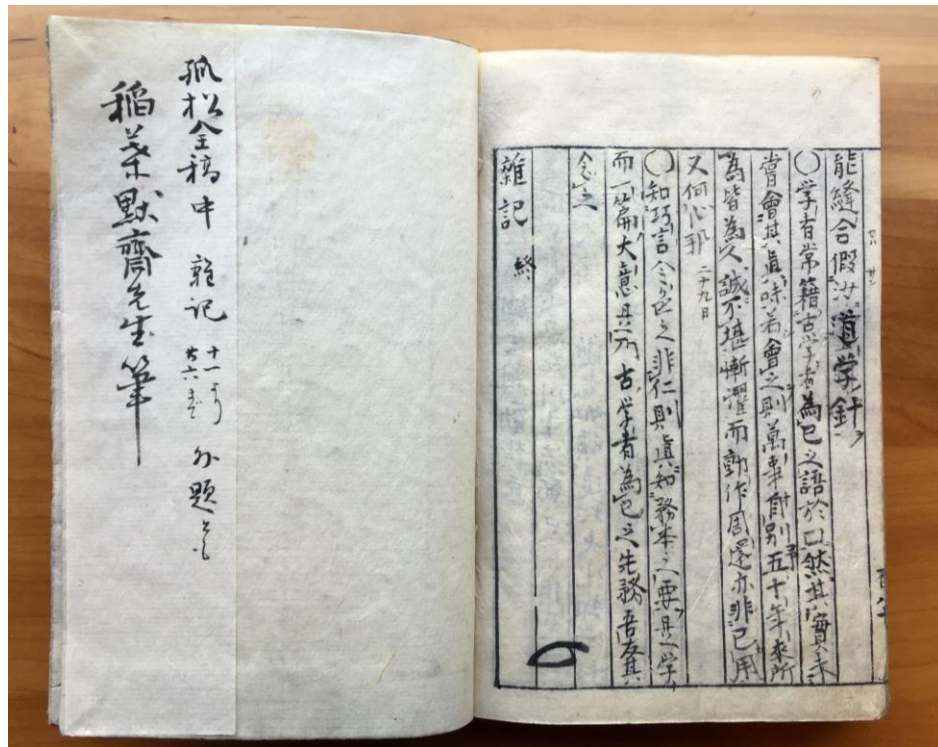


- No.775
- Written in middle Edo Period
- 42books in all

自筆でない部分 not his own writing
…正編1-25巻 main part vol.1-25,
続編15-16巻 sequel vol.15-16



默齋自筆部分 written in Mokusai's own writing
 …続編1-14巻、17-24巻 sequel vol.1-14.17-24



Nihon Koten Bungaku Daijiten (日本古典文学大辞典), Iwanami-shoten

孤松全稿 こしやうぜんこう 三十九卷。叢書。稲葉黙齋著。書名は、黙齋が晩年隠棲した孤松庵の名による。【内容】二十一歳の時の「姫島講義」に始まる黙齋一生の雑録。語録・講義・漢詩文・書簡・日記・紀行・随筆・伝記・祭文、ならびに先達の遺事などが収録されており、それに文体も漢文あり和文ありで、内容・書式ともに多様である。黙齋自身の学問思想・性行事蹟を見るのに最も基本になる文献であることはもちろん、崎門(きもん)学派の消息を知る上にも貴重な資料を数多く提供してくれる。従来から、佐藤直方の系統を引く関東の崎門学者の間では、金科玉条として尊崇されてきた。【諸本】他の多くの崎門関係の諸書と同様、本書も写本で伝わっている。現在では無窮会神習文庫本・千葉県立中央図書館本、それに個人所蔵本など、いくつもの伝本があるが、完本はごく少ない。全体は写本のままで伝わったが、刊行された部分もある。最も著名なのは、『全稿』巻三にある『先達遺事』一卷(漢文)である。明和初年頃の著作で、山崎闇齋とその門流達の言行を集めたもの。崎門の学風を知るのに有益な資料。明和四年(一七六七)三十六歳の時にすでに刊行され、その後、明和九年・文化九年・文政八年・同十一年と版を重ね、よく読まれたことが分かる。

- “Kosho Zenko” was named from Kosho-an(孤松庵), Inaba Mokusai’s hermitage in his later years.
- “Kosho Zenko” is Mokusai’s miscellaneous notes in his life, from 21 years old.
- A full set of “Kosho Zenko” is rare.

Nihon Koten Bungaku Daijiten (日本古典文学大辞典), Iwanami-shoten

稲葉黙齋 いなばもくさい 江戸時代の儒学者。名は正信、通称又三郎。黙齋は号。父は稲葉迂齋(うさい)。母は武井氏。その二男として、享保十七年(一七三二)十一月十三日江戸に生まれ、寛政十一年(一七九九)十一月一日に没、六十八歳(碑陰)。墓所は千葉県成東の元倡寺。【事蹟】幼にして父迂齋に学び、や長じて父の命により、父の友人野田剛齋に師事して、崎門(きもん)の道学を修めた。終生仕官せず、とくに晩年の二十年間は、江戸を離れて、父の門人が多く住む上総清名幸谷(せいなごや)(その居を孤松庵と名付けた)に隠棲して、講学に専念した。人となり狂簡不屈、若い頃身を持ち崩したこともあったが、父の志を継いで、佐藤直方学の継承発展に力を尽し、直方派中興の大儒と称されている。【著作】『孤松全稿』三十九卷、『清名全書』一五〇冊(黙齋の講義録集)(いづれも写本)、ならびに、直方の『韞蔵録(うんぞうろく)』、父迂齋の詩文集や『迂齋学話』、それに『四書或問抄略』(享和二年(一八〇二)刊)など、編纂書が多数ある。生没一七三二—一七九九

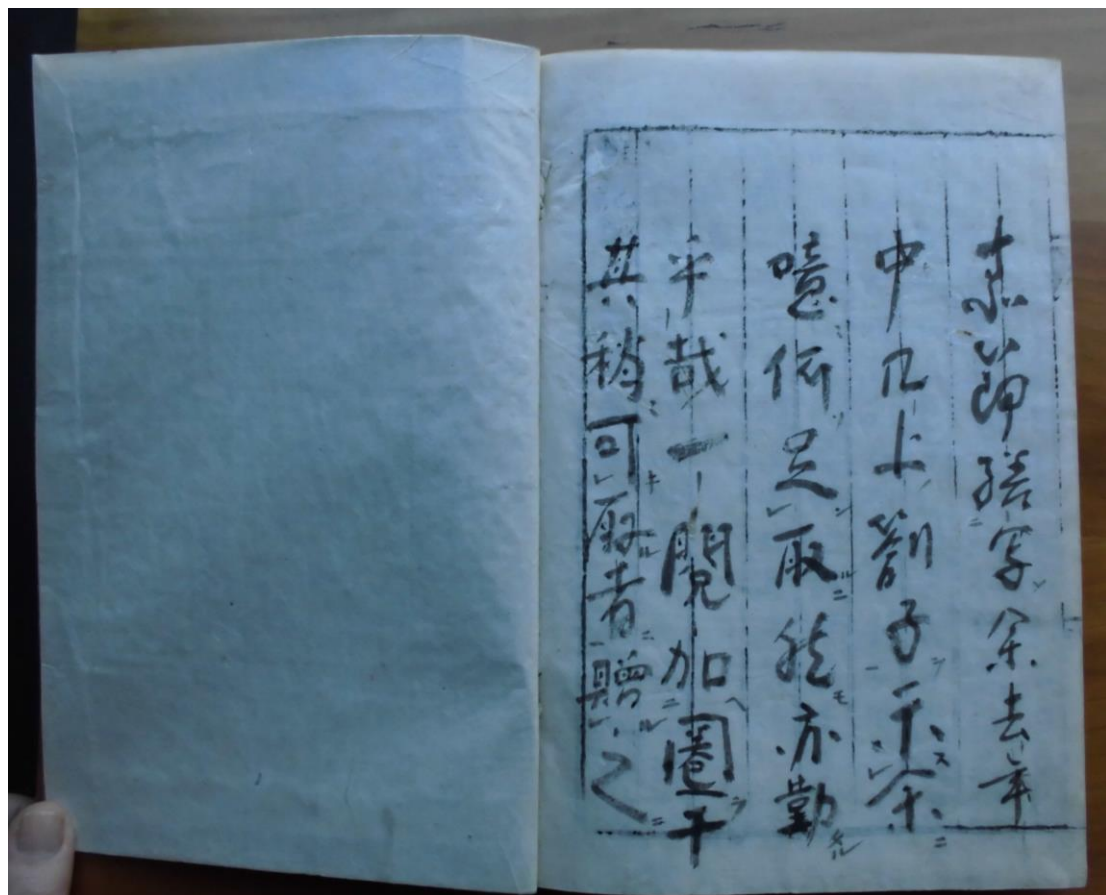
【参考文献】池上幸次郎「稲葉黙齋先生伝」昭和8年。○同「稲葉黙齋先生」(『東洋文化』昭和11年14月)。

佐藤 仁



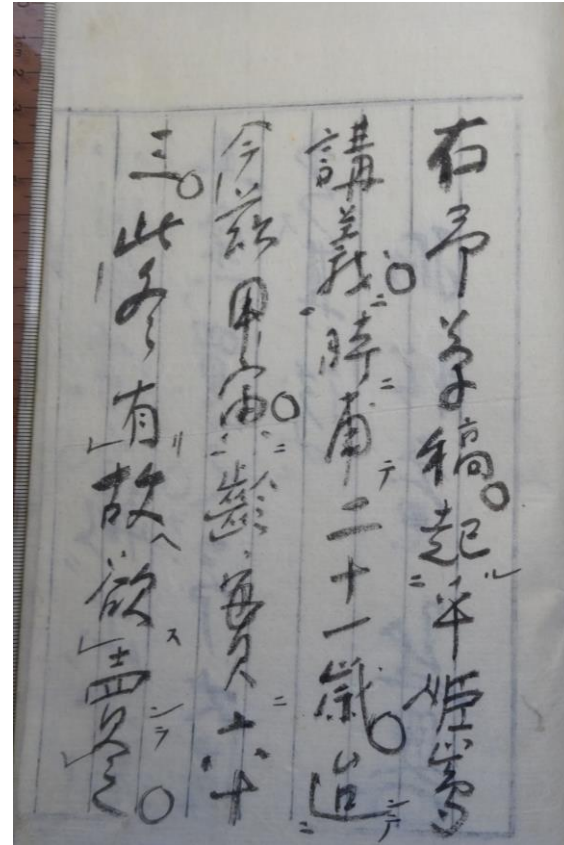
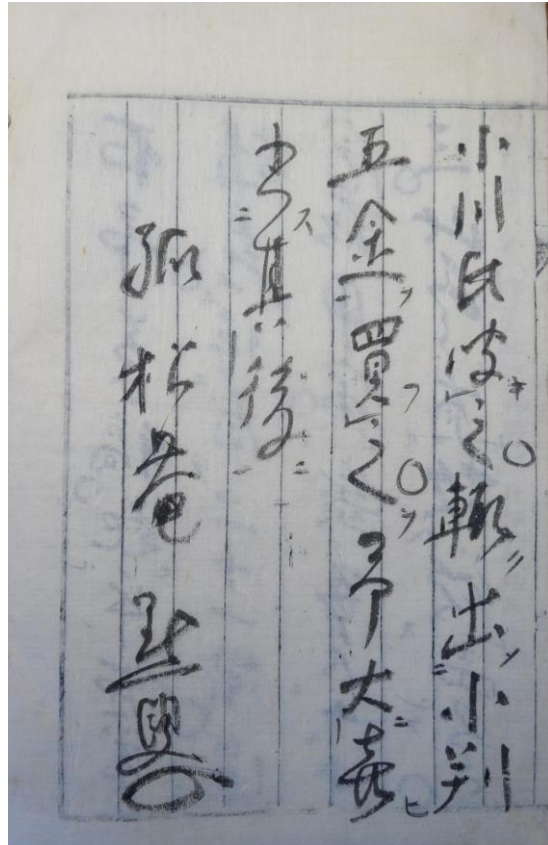
- Inaba Mokusai(1732-1799) was a Confucian scholar in middle Edo period.
- His father, Inaba Usai was Confucian scholar, too. Usai was Sato Naokata's leading pupil.

統編卷18末尾



続編卷32末尾の黙齋付記

Mokusai's addition at the end of sequel vo.32

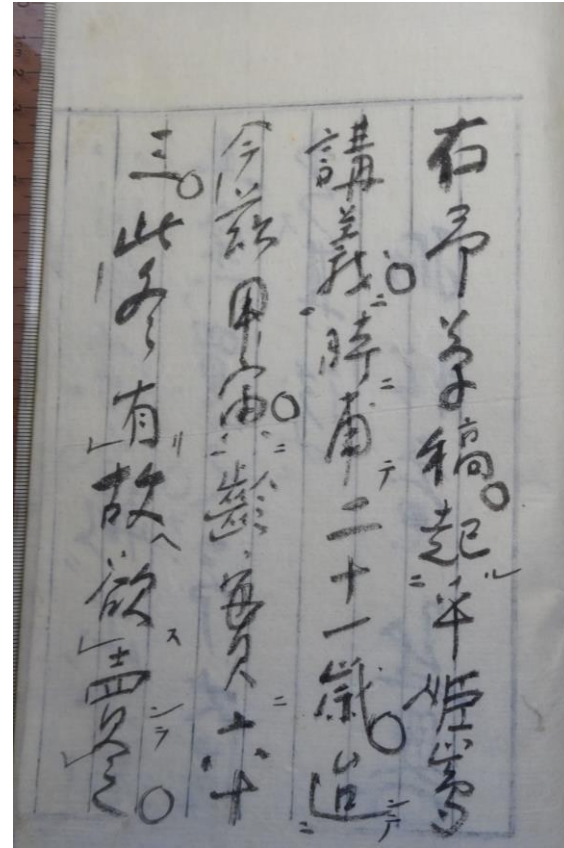
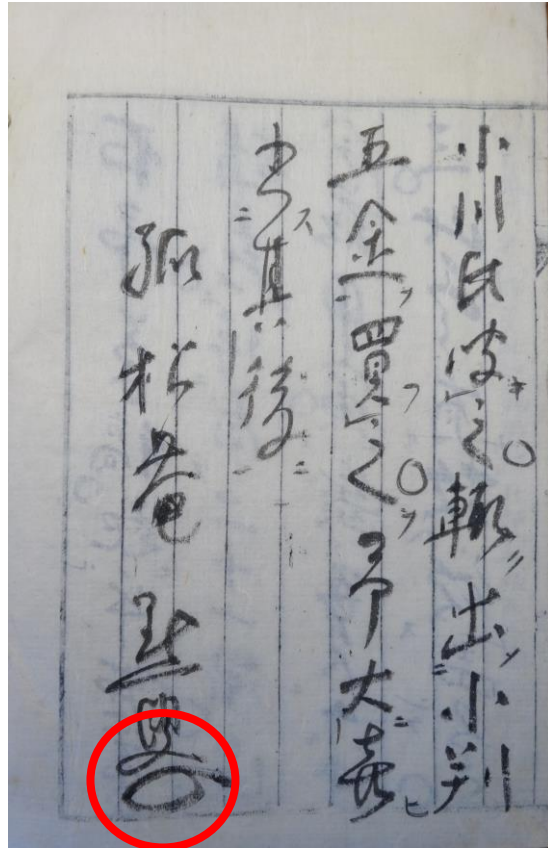


右予草稿、起乎姫島講義、時甫二十一歳。迨今茲甲寅、齡實六十三、此冬有故欲売之、小川氏聞之、輒出小判五金買之。予大喜書其後。孤松庵 黙叟

My notes was started from "Himejima Kogi", when I was 21 years old. Now, 1794, I turned 63 years old. This winter, I tried to sell these notes for some reason, Mr. Ogawa heard it and purchased my notes for 5 gold coins. I was very glad, so I recorded after sold out. Koshō-an, Mokuso

続編卷32末尾の黙齋付記

Mokusai's addition at the end of sequel vo.32



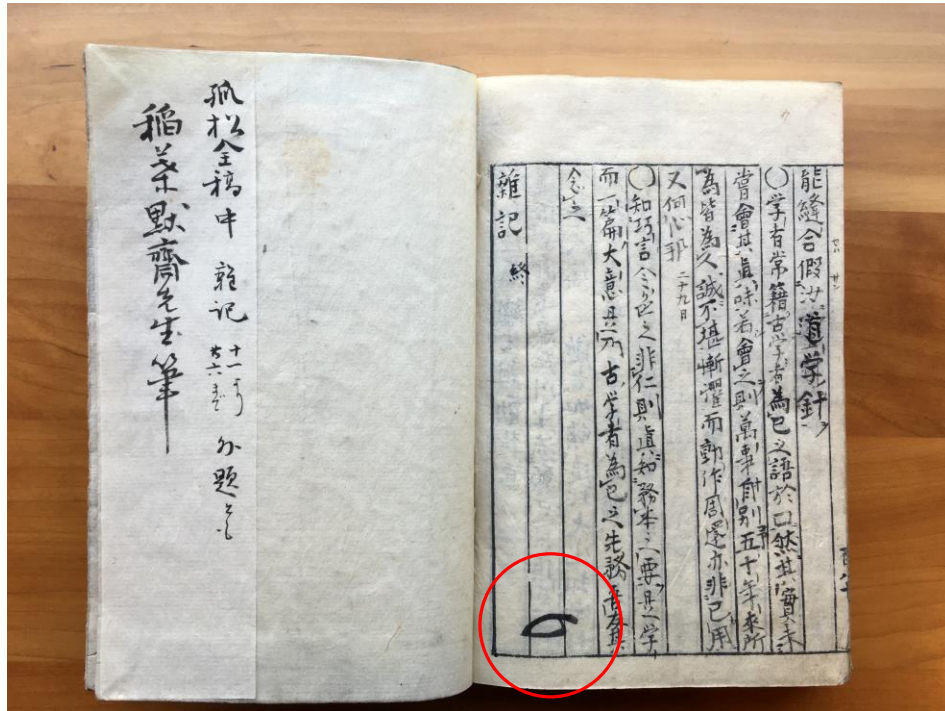
右予草稿、起乎姫島講義、時甫二十一歳。迨今茲甲寅、齡実六十三、此冬有故欲売之、小川氏聞之、輒出小判五金買之。予大喜書其後。孤松庵 黙叟

My notes was started from "Himejima Kougai", when I was 21 years old. Now, 1794, I turned 63 years old. This winter, I tried to sell these notes for some reason, Mr. Ogawa heard it and purchased my notes for 5 gold coins. I was very glad, so I recorded after sold out. Koshō-an, Mokuso

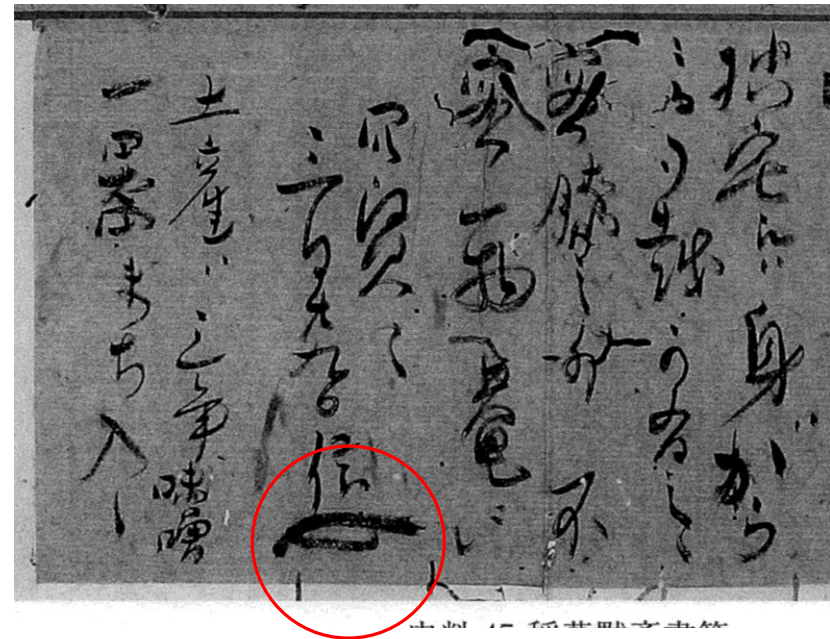
黙齋の花押

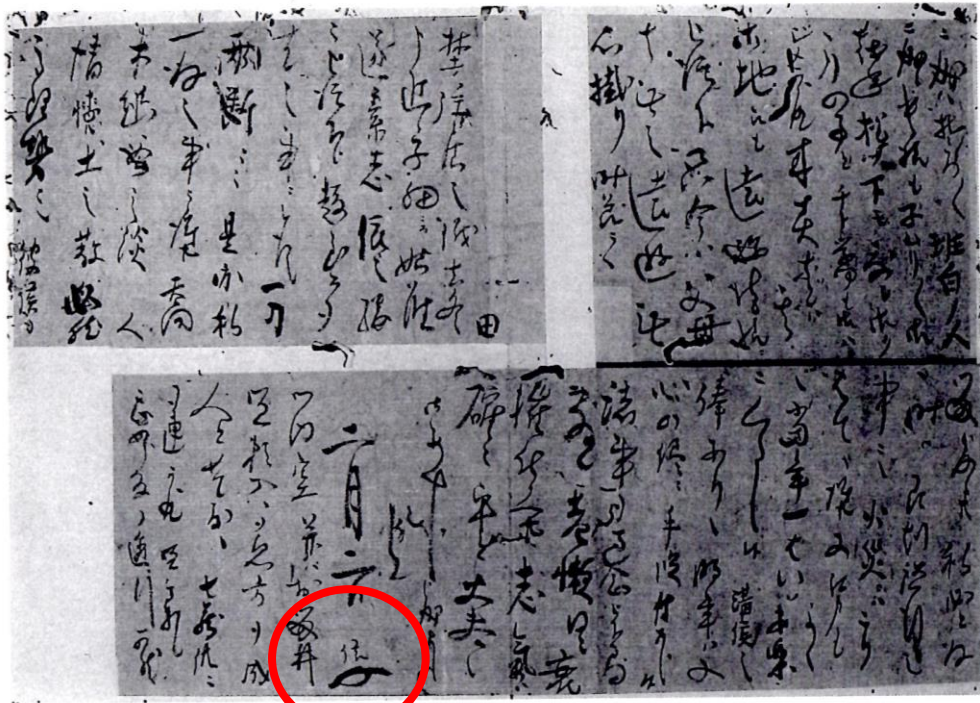
Signature by Mokusai

“Kosho-Zenko” owned by UCB



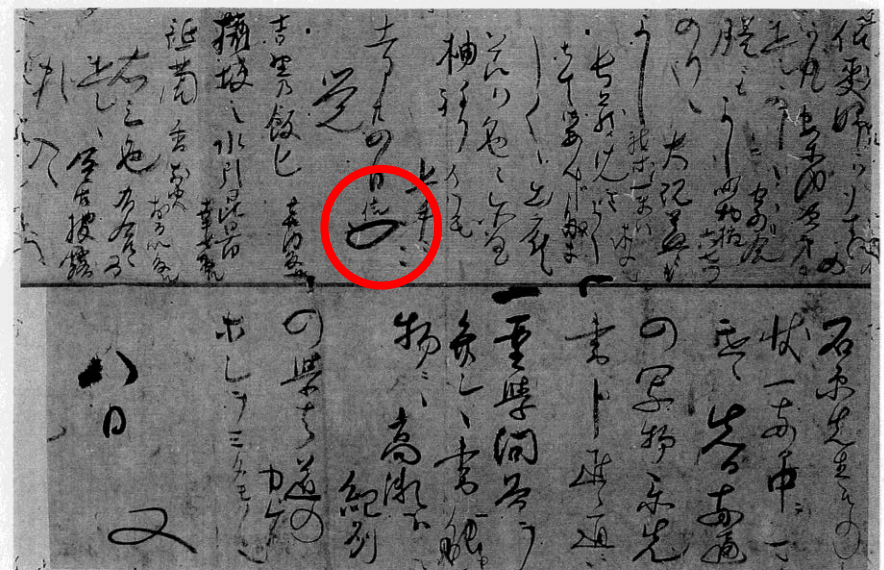
Mokusai's letter (山武市郷土資料集 12『稲葉黙齋先生翰墨帖一 稲葉黙齋の手紙』一)





史料 46_2 稲葉黙齋書簡

稲葉黙齋先生翰墨帖 式



史料 47_2 稲葉黙齋書簡 (上)

史料 48 稲葉黙齋書簡 (下)

『孤松全稿』の諸本

Various books of “Kosho Zenko”

孤松全稿 四〇卷 類漢学
①著 稲葉黙齋 (正信) ②写 千葉 (卷一欠、本
編二二卷九冊)・無窮神習 (卷七欠、三九卷
四四冊) ③活道学遺書初集 *第八卷叢書目
録を見よ

写本 (manuscript)

●千葉県立中央図書館 Chiba prefectural library

...missing vol.1

main part 22 volumes, 9 books

●無窮会神習文庫 Mukyu-kai, Kan'narai library

...missing the vol.7

39 volumes, 44 books

『孤松全稿』の著名箇所

The famous parts of “Kosho Zenko”

【諸本】他の多くの崎門関係の諸書と同様、本書も写本で伝わっている。現在では無窮会神習文庫本・千葉県立中央図書館本、それに個人所蔵本など、いくつかの伝本があるが、完本はごく少ない。全体は写本のままに伝わったが、刊行された部分もある。最も著名なのは、『全稿』巻三にある『先達遺事』一卷（漢文）である。明和初年頃の著作で、山崎闇斎とその門流達の言行を集めたもの。崎門の学風を知るのに有益な資料。明和四年（一七六七）三十六歳の時にすでに刊行され、その後、明和九年・文化九年・文政八年・同十一年と版を重ね、よく読まれたことが分かる。【翻刻】日本儒林叢書3。近世儒家史料・中。日本思想家史伝全集18。なお日本儒林叢書3には、『先達遺事』の補遺ともいうべき『墨水一滴』一卷が収められている。また同じく日本儒林叢書3に収められている渡辺予齋編の『吾学源流』一卷は、『全稿』からの抜粋である。また道学協会（黙斎三伝の弟子の石井周庵が主となって明治十六年に設立した）刊行の『道学遺書初集』（明治二十四年）の中に、『全稿』の最初の部分である「姫島講義」「同余論」「内艱劄記」「話録」「若松草」「若松夜話」などが収録されている。

「佐藤 仁」

日本古典籍総合目録DB

Union Catalogue of Early Japanese Books

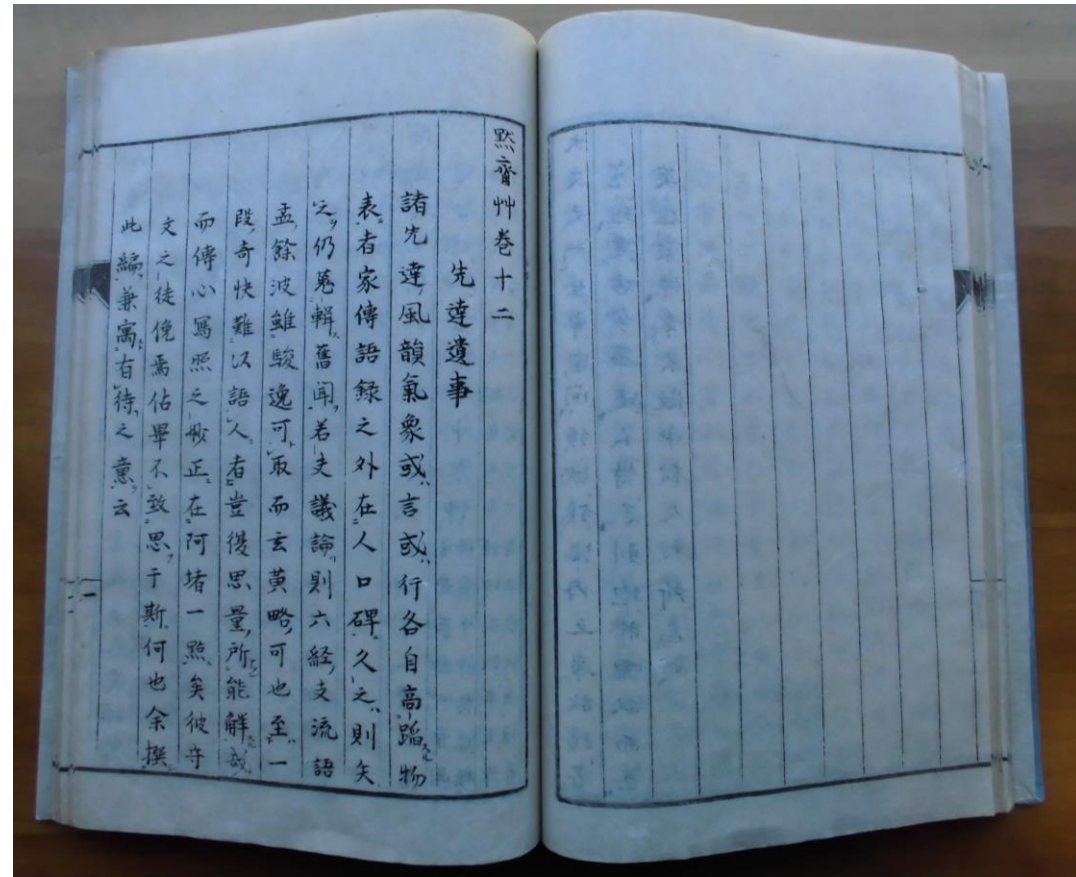
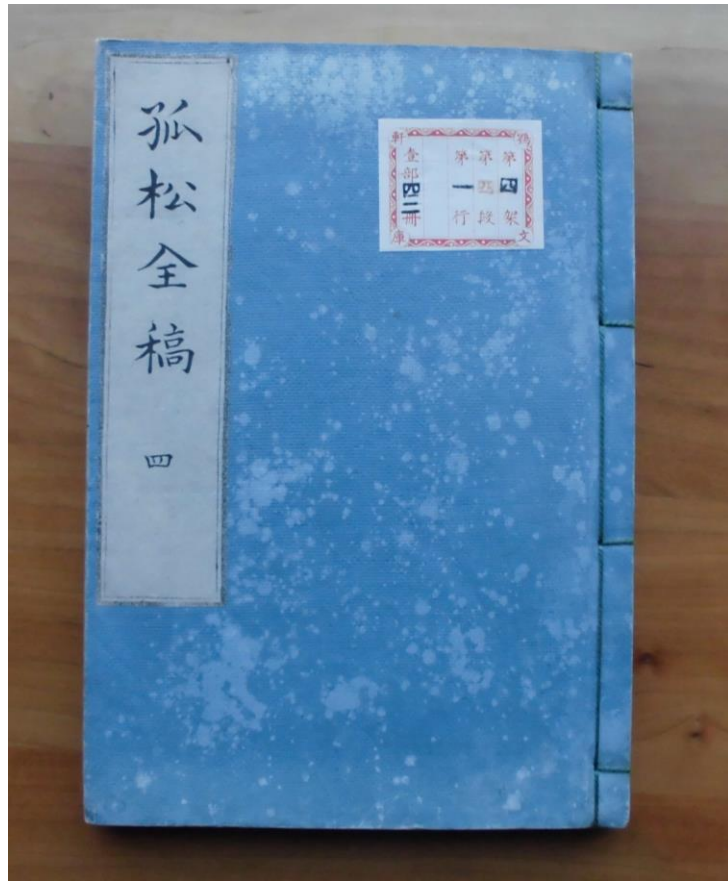
著作ID	40824
統一書名	先達遺事(せんだついでいじ)
巻冊	一冊
角書	道学
分類	伝記
著者	稲葉/正信(稲葉/黙斎)
成立年	明和四序
国書所在	【写】慶大(「先達遺事山崎佐藤浅見三宅四先生略伝」、中村習斎写)、高知(土佐史料四二六)、無窮神習(孤松全稿四)【版】<明和四版>内閣、静嘉、東博、京大、教大、東大、東北大狩野、日大、大阪府、日比谷加賀、岩瀬、金沢市稼堂、栗田、大東急、無窮織田、無窮神習、学書言志<明和九版>大阪市大森<文化九版>京大、広島大<文政八版>慶大、大橋<文政一一版>無窮織田<刊年不明>国会、静嘉、岡山大池田、東大、東大史料、石川李花、宮城、尊経、茶函成篋、[補遺]岡山県、日比谷諸家【復】〔活〕近世儒家史料中・日本思想家史伝全集一八・日本儒林叢書三・[補遺]孤松全稿(明治二四)〔臚〕[補遺]房総郷土研究資料特集号二〇-二四
著作種別	和古書
国書	『国書総目録』所収, 1

日本古典籍総合目録DB

Union Catalogue of Early Japanese Books

著作ID	1017943
統一書名	墨水一滴(ぼくすいいてき)
巻冊	一冊
別書名	[1] 続先達遺事(ぞくせんだついじ)
分類	伝記
著者	稲葉/正信(稲葉/黙斎)
成立年	明和三自序
著作注記	〈備〉日本古典文学大辞典に解説あり。
国書所在	【写】国会(輪池叢書四二), 内閣, 東北大狩野, 岩瀬, 大倉山(文政六山口好憲写), 尊経, 無窮織田(帯秋艸廬雑編八), 無窮神習(孤松全稿五), 無窮平沼(二冊), 中山久四郎(文政三写) 【複】〔活〕近世儒家史料中・日本儒林叢書三
著作種別	和古書
国書	『国書総目録』所収, 1

先達遺事 Sendatsu Iji

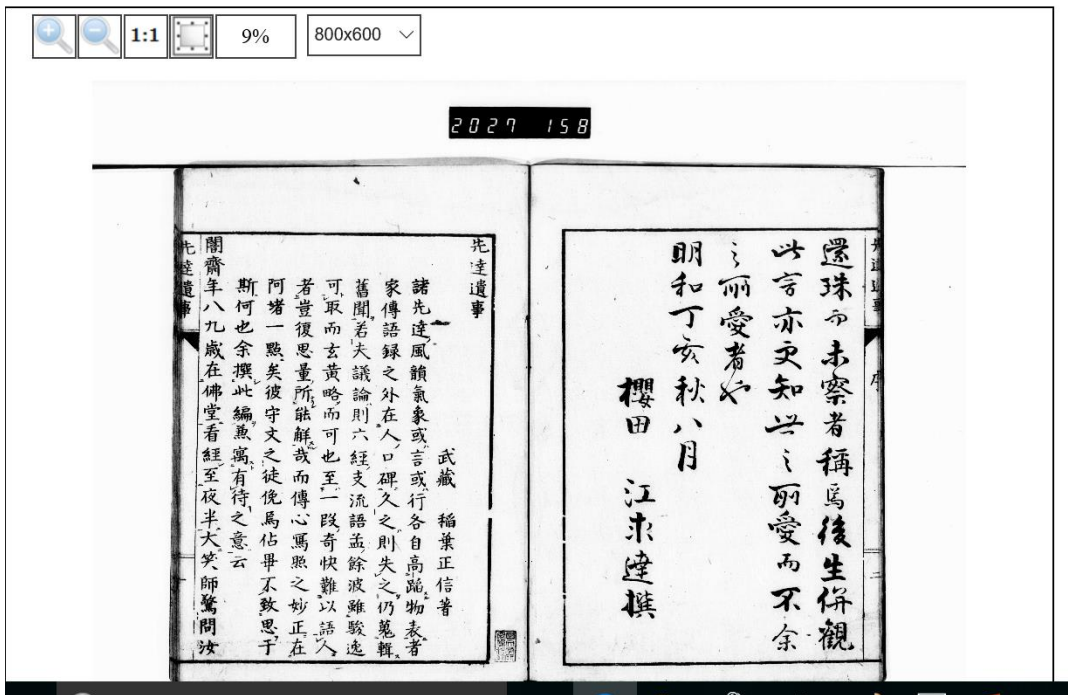


「先達遺事」版本 Printed “Sendatsu Iji”

<https://doi.org/10.20730/200008103>

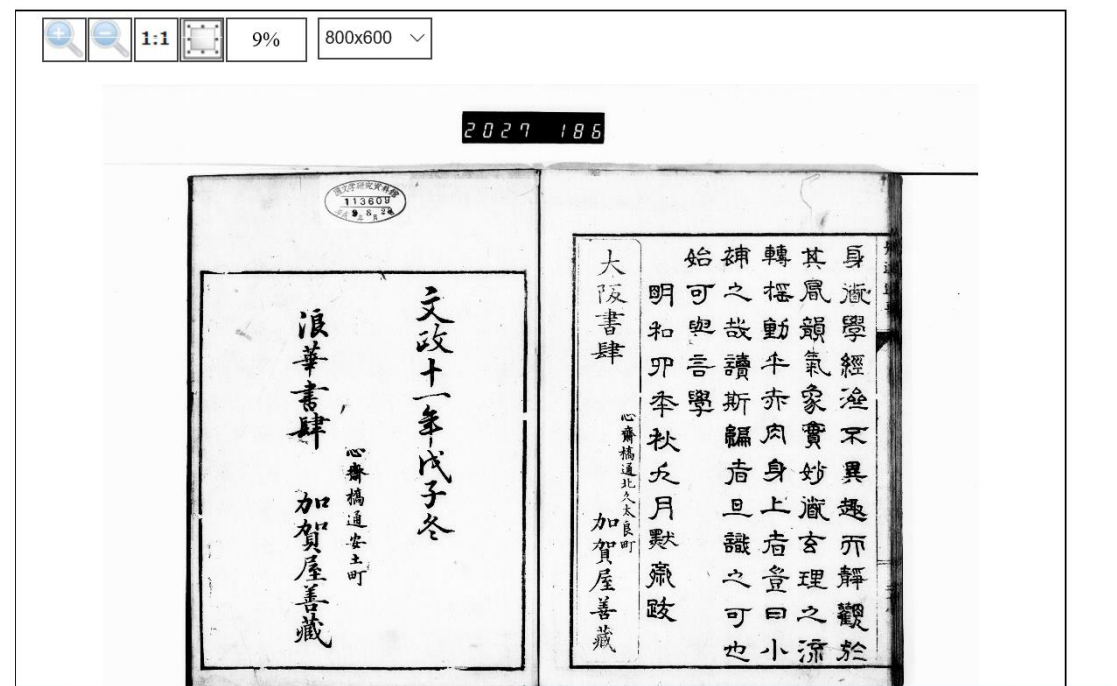
書名: 先達遺事
請求記号: 52-169
所蔵者: 国文研石野

◀先頭 ◀前 4 コマ/全33コマ 次▶ ▶最後▶▶

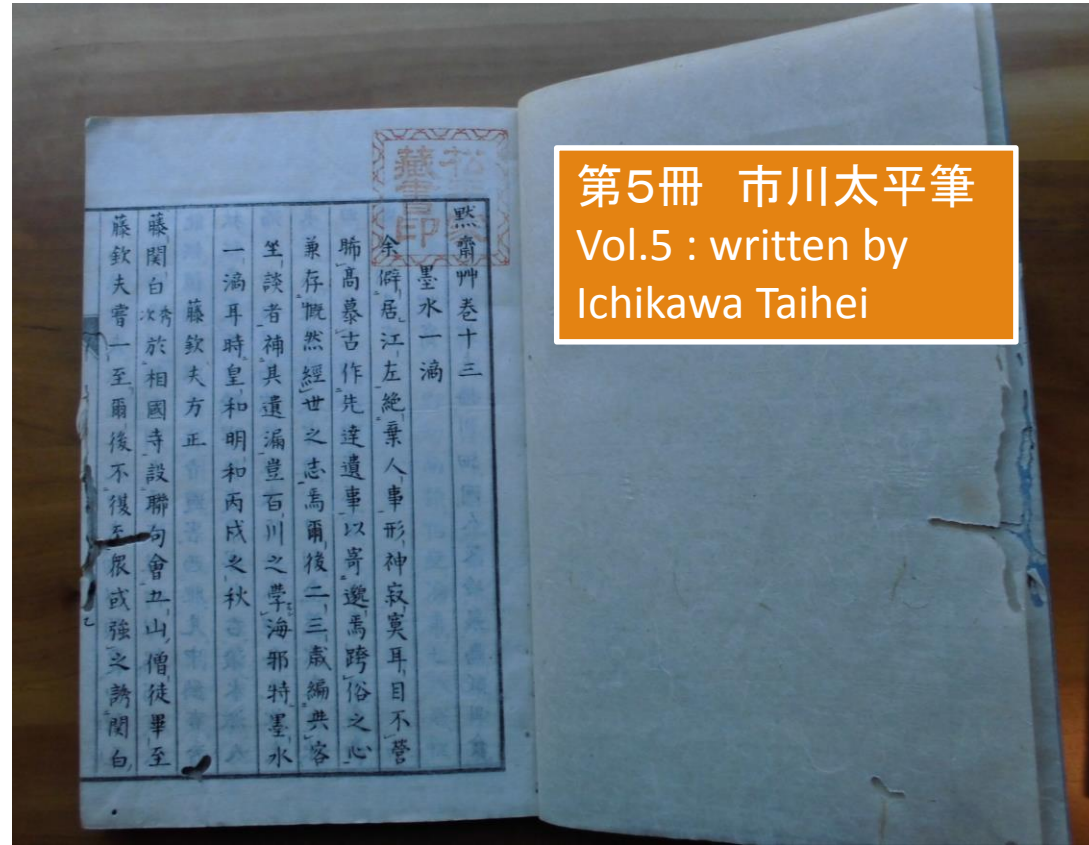
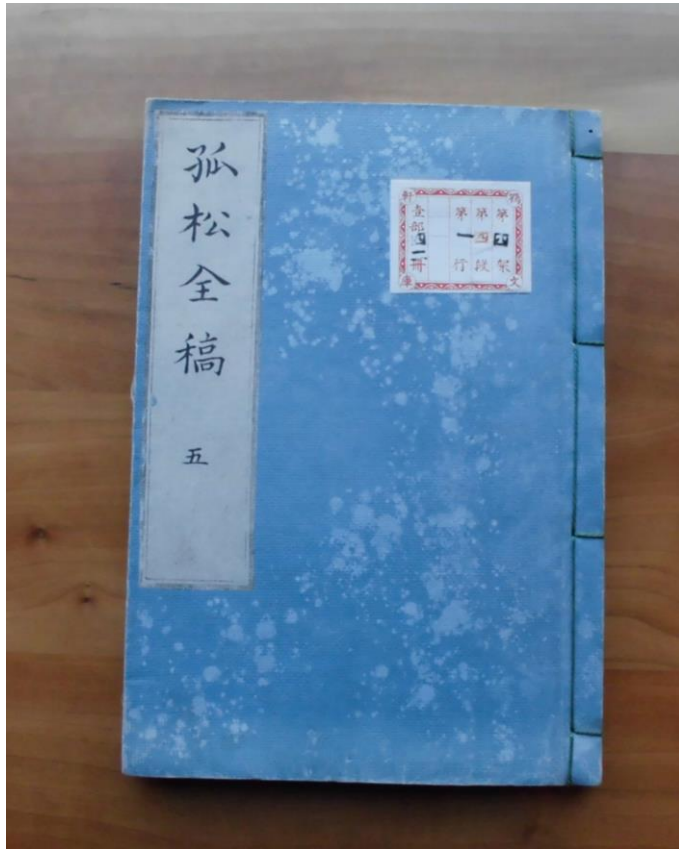


書名: 先達遺事
請求記号: 52-169
所蔵者: 国文研石野

◀先頭 ◀前 32 コマ/全33コマ 次▶ ▶最後▶▶



墨水一滴 Bokusui Itteki



第5冊 市川太平筆
Vol.5 : written by
Ichikawa Taihei